

普及啓発・人材育成推進方策検討ワーキンググループ
第5回会合 議事要旨 (案)

1 日時

平成24年3月7日(水) 15:00～17:00

2 場所

東京都港区 山崎ビル 会議室

3 出席者(敬称略)

(主査)	小泉 力一	尚美学園大学大学院教授
(委員)	荒木 浩一	株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ
	伊藤 求	ニフティ株式会社
	尾花 紀子	ネット教育アナリスト
	勝村 幸博	株式会社日経BP社
	川上 隆	学校法人岩崎学園
	小屋 晋吾	トレンドマイクロ株式会社
	近藤 則子	老テク研究会
	佐竹 正範	ヤフー株式会社
	里中 慧	株式会社ミクシィ
	杉浦 昌	日本電気株式会社
	高橋 正和	日本マイクロソフト株式会社
	長島 武生	日本電信電話株式会社
	西本 逸郎	株式会社ラック
	平尾 芳郎	ソフトバンクモバイル株式会社
	藤本 浩司	株式会社電通
	前田 典彦	株式会社カスペルスキー
	村上 智	株式会社シマンテック
	本橋 裕次	マカフィー株式会社
(事務局)	占部 浩一郎	内閣審議官
	泉 宏哉	内閣参事官
	木本 裕司	内閣参事官
	花岡 一央	参事官補佐

4 資料

資料1 普及啓発・人材育成推進方策検討ワーキンググループ第4回会合 議事要旨

資料2 平成23年度「情報セキュリティ月間」取組結果

資料3 今後のスケジュール

参考資料 普及啓発・人材育成推進方策検討ワーキンググループ委員名簿

5 議事概要

(1) 平成23年度「情報セキュリティ月間」取組結果の報告

事務局より資料2に沿って説明し、委員による意見交換が行われた。委員等からは以下のような意見が述べられた。

①政府の取組について

- 国民を守る情報セキュリティサイトにおいて、週の半ばのアクセス数が多いのは、一般家庭ではなく企業の方がアクセスしている可能性が考えられる。また、2月6日(月)のピークは面白い現象。日ごとのアクセス数といろいろなイベント、企業・個人・学校などのアクセス元を分析すると、より良い効果が見いだせると思う。
- サイトの日ごとのアクセス数は、メディアに取り上げられた日にピークが出ていないため、メディアによる効果があまりなかったのかと思う。アクセス数は多いとはいえないが、テーマと露出を考えると妥当ではないか。
- 初心者向けページの案内がうまくリリースされていなかったのであれば、来年からはメディアがより扱いやすいように、URLを画面と一緒にリリースするなど工夫するとよい。
- 政府が提供する初心者向けの情報は有用なので、アクセス数は少なくとも継続して拡充してほしい。少しでも拡充した場合には何らかの形で周知すると、メディアによる紹介や多くのユーザーのアクセスに繋がると思う。
- どのページにアクセスが集中していたかをサイトマップ形式にしてみると、ユーザーがどこに興味を持ったかがわかるので、次回の目標を定めるときの参考になると思う。
- 去年はサイトに掲載されるコメントが毎日のように変わっていたため、そのたびに取り上げることができたが、今年サイトには変化がなく、情報セキュリティ月間中の動きが取りにくかった。変化があれば何回か活動できた気がする。
- サイトについては、ページビュー数よりも誰が見に来ているかという分析が必要である。どういうドメインからアクセスされているかを見ることにより、届けたい人に情報が届いているかを把握できる。ツイッターについても同様で、フォロワー数よりもどんな人がフォローしているか、ツイート回数よりもツイートがどういう人に届きどう議論が広がったのを見ることが大事である。イベント告知のような情報発信だけではなく、ハッシュタグを設定して国民の間に議論が広がるような投げかけをするといった使い方もある。
- 情報セキュリティ月間中のアクセス数を上げるには、いろいろな方に関心を持ってもらえるように情報を出し続けるしかない。セキュリティに関する事件事故などの情報と共に、海外の情報や子ども向けの取組情報なども提供するとよい。
- 情報セキュリティ月間の音頭を取る立場として、細かいアクセス分析よりも参加する人たちをプロモートする方向に持っていくべきと思う。

- 情報発信する側はネタをもらえるとやりやすい。読み物的なネタをためておいて情報セキュリティ月間に合わせて提供するの也不错、月間中のセミナーの様子をレポートすればニュースのネタにもなり、次の機会に参加してみようとなるのではないか。
- 情報セキュリティ月間の応募行事が約 4500 件というのはすごいパワーだと思う。都道府県警察の講習をきっかけに翌年は全国の学校でやるなどし、それをメディアに取り上げてもらえればインパクトがあるのではないか。
- 警察の方の話はサイバー犯罪の現状と検挙事例にとどまりがちであるが、受講者は「それらを防ぐためにはどう対策すればいいか」を知りたい。具体的な対策例を都道府県警察に情報提供できる手段があるとよい。
- 情報セキュリティに関する正しい情報をリツイートして集約し、自分のパソコンやスマホに關係するウイルス情報などのセキュリティ情報を得られるようにすれば、国民はフォローしてくれるのではないか。

②協力企業等の皆さまの取組について

- 政府は「初心者」という広報をしているようだが、パソコンの初心者ではないものの情報セキュリティはよくわからないという人たちに向けて、情報発信の仕方に工夫があると良い。
- セキュリティも大事だが、インターネットを使ってみんなが自由に情報発信することがとても大事である。インターネットは怖いものだから使うのをやめようという人が増えるのはゆゆしきことだと思っており、今回のシニアネットフォーラムでは、何が大事なのかということを発信した。
- 当社では、スマホを中心とした特集を組んだところ、過去最高に近い反響があった。初心者のスマートフォンに絞ったところが響いたと理解している。
- 学生によるディスカッションは予想以上に白熱した。ほかの学校も含め関心のある学生たちにボランティアで小中高生向けに話をしてもらうなど、学生の社会貢献意識やエネルギーを活かした活動に発展できればと感じた。
- 学生の力や熱のようなものは、日本の情報セキュリティについては情報技術分野において、これから大事にしなくてはいけないと思う。
- Love PC は、インターネットのマジョリティが男性であるなかで、女性に相当リーチできた。女性に向けたアプローチの仕方とコンテンツは、今後の展開のヒントになったと思う。
- 国民という括りだと分かりにくいので、今後はターゲットをある程度絞る戦略も考えてプロモートしていく必要があると思う。
- e ラーニングによる一般的な情報セキュリティ教育では、正しい答えを選択することができても実践に結びつかないことが多いが、自社の実務において起こり得る具体的なケースを教材にするのは有効だと感じた。
- 社員へのアピールは反響があったが、社外へのアピールは当方が想定していたほどの反響をえることができなかつた。バナー掲示によるアピールだけではなく、社外に対して、何かしら目に見える形で行動することの必要性を感じた。

- 毎日ネタを作ることをテーマとして取り組み、脆弱性情報やセキュリティニュースなどのコンテンツを毎日発信した。
- 情報セキュリティに関する情報を集約したものとしては、IPA の MyJVN がある。一般の人が見てくれるかは疑問だが、周知してもいいと思う。

(2) 平成24年度「情報セキュリティ月間」の実施に向けた改善事項等に関する意見交換

委員による意見交換が行われた。委員等からは以下のような意見が述べられた。

- アニメーション形式の社内向け e ラーニングを 10 月から始め、2 月に 100% 受講を達成した。コンテンツをつくる時は動画にすると、メッセージがすっと入ってくるし、アイキャッチに役立つと思う。
- セキュリティの説明は理屈で話しすぎていると感じる。標的型攻撃の話などは文章で読むとわかりにくい、アニメーションだとどうということなのが腹に落ちる。理解を深めるためにはビジュアルに訴えるものも考えていいと思う。
- 参加して自分で考えることがプラスに働く。来年の情報セキュリティ月間では熟議のような形の取組を全国何カ所かでやってはどうか。取組結果の報告ができればニュースにもなると思う。
- セキュリティ上よくない状態（例：パスワードが貼られたディスプレイ）を写真や動画を、社内フォトコンテストのような形で募集し、それを改善しようという取組も社内のセキュリティ向上に役立つのではないかと。
- 川柳はいいと思う。個人の目や耳に残り、メディアに取り上げられるきっかけにもなる。川柳の中に入っている情報セキュリティのキーワードに関心をもってもらうような刺激の仕方もあると思う。
- ポスターを全事業所、全国の支店支社に貼りたいが、簡単には貼れないという社内組織の壁がある。各企業のインタフェース等、話を先に進めるための検討をしたい。
- NISC によるアクセス分析と報告は必要だと思う。分析結果自体に価値があるし、定性的・定量的分析結果をもとにすれば新たな切り口も出てくる。単にプロモーションだけではなく、全部しっかりやっているというためにも、分析と報告はするべきだと思う。
- アクセス分析をしないのはもったいない。分析すればアクセスしないのはどういう層なのかということもわかり、次の展開に役立つ。
- ソーシャルメディアでは、ネタ投稿が参加の敷居も低く広がりやすい。ツイッターでセキュリティ川柳を集めようというハッシュタグを作り、セキュリティを考えるきっかけにしてもらうようなことも検討するとよい。
- フィンランドでは各家庭にセキュリティの冊子を送るような取組をしており、各家庭における PC のウイルス感染率を 20% から 15% まで下げたというような宣

伝をしている。取組によりこれだけの成果があったといえると、やるほうもモチベーションがあがるので、学ぶべき点があると思う。

- セキュリティ月間があるのはいいことだと思う。政府が月間の音頭取りをするからこそ、社内でも特集を作って啓発しようという風になっている。ずっと続けていくべきだと思う。
- ツイッターのフォロワー数を来季に向けて二桁増やすような目標を立てて川柳をやってはどうか。朝の情報番組の川柳コーナーに年一回くらい情報セキュリティを取り上げてもらえるように働きかけをしてもいいと思う。
- 情報セキュリティ月間の取組自体は継続すべきと思う。川柳については、面白いものはずっと頭に残るイメージもあるので、私も一票入れたいと思う。
- 情報セキュリティ月間はまだまだあまり浸透していない。短期的には月間が2月にあるということを最初にプッシュして、それに付随して話をしたほうがわかりやすいと思う。
- 情報セキュリティ月間をやることには私も賛成だが、「知る守る続ける」とあるように「続ける」という視点も必要だと思う。テーマを絞って盛り上げるようなプロモーションを2月にやりつつ、2月以外でも常に底上げをしたい。
- 学生さんを動員したイベントが浸透してきているように思う。もう少し学生さんの身近なところで、こういう使い方をしないと危ないといった観点でイベントをやると、草の根的に広がっていくのではないかと感じた。
- 情報セキュリティ月間を10月に移すという話には何か理由がないと、2月の月間を浸透させようと苦労している方々が今までやってきたものはなんだったのかということになる。10月に移すならそこを酌むかたちでやってもらいたい。
- 情報セキュリティ月間を10月に移すのではなく、情報セキュリティ月間は2月のまま、情報セキュリティウィークを別途10月に開催すればよい。
- 10月には国際的なところにフォーカスを当てた取組を行い、2月にはドメスティックな取組を行うとよいのではないかと。

(3) 今後のスケジュールについて

事務局より資料3に沿って説明。

－ 以 上 －